

事業の背景・目的

・地域の生態系、人体、農業に被害を及ぼす可能性のある外来生物の侵入や定着を防止することを目的とする。具体的には関係機関の連絡体制の構築、県民に対する正確な情報提供による注意喚起などを行なうことで、県内未定着の外来生物の早期発見・早期防除を目指す。

事業の内容

事業ア 県内各市町、関係団体等との連絡会議の設置、開催

・県内市町や関係団体等と連携を図り、外来生物の早期発見・早期防除等を推進するため、外来昆虫等連絡会議及びアライグマ・ヌートリア対策連絡会議を設置し、各1回ずつ開催した。

事業イ 県民向けガイドラインの作成

・通報窓口の明確化や外来生物の正確な情報発信を図るため、ヒアリ類に関する情報を整理し、県民向けガイドラインとして取りまとめた。なお、今後はクビアカツヤカミキリなど他の生物についても作成予定である。

事業ウ 水生外来生物の調査

・県内で生息情報が複数あり、定着が疑われたアリゲーターガーについて、環境DNA分析技術を用いて調査を行った。

事業エ コンテナ取扱事業者への指導強化及び外来昆虫等セミナーの開催

・外来昆虫の早期発見・早期防除のため、行政職員、港湾関係者、試験研究機関、民間企業、一般県民等を対象とした「外来昆虫対策の技術講習会」を開催した。

事業オ 緊急用薬剤等の配備

・県内未定着であるヒアリ類やクビアカツヤカミキリが発見された場合に早期防除を行うため、薬剤やガードネット等を購入し県内8カ所に配備した。

得られた成果

- ・外来昆虫等連絡会議及びアライグマ・ヌートリア対策連絡会議の設置により、県内各市町、関係団体等との連絡体制が構築できたことから、今後は各市町や関係団体との情報交換を密にし、早期防除につなげていく。
- ・ヒアリ類に関する情報等を県民向けガイドラインとしてまとめ、幅広く県民に周知することができた。
- ・水生外来生物調査では、県内での定着が疑われたアリゲーターガーの生息は確認できなかった。今後も引き続き定着が疑われる外来生物の生息状況の把握に努める。
- ・外来昆虫対策の技術講習会の開催により、外来生物を発見した場合の対処方法等の普及啓発や技術指導を進めることができた。これにより早期防除につなげていく。
- ・ヒアリ類やクビアカツヤカミキリ発見時の薬剤、ガードネット等を備蓄したことにより、発見時には早期防除が可能となった。